

BIM施工における標準活用事例 第11回

BIM施工標準活用事例シート

No. **20**

01 施工

02 施工

03 発注

04 工程管理

06 安全

07 品質

08 検査

09 試運

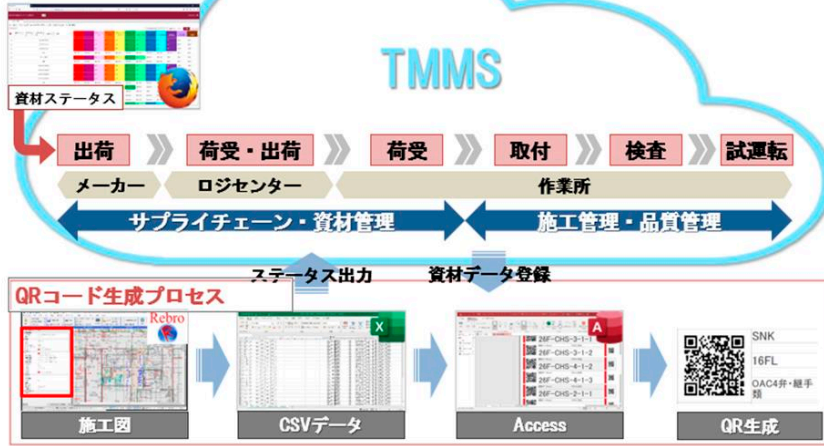
10 その他

QRコード活用による資機材工程管理

BIM・QR・TMMSを活用した管理

TMMS(総合資材管理システム)を活用したリアルタイムでの情報共有

メーカー出荷～試運転までの一連の流れをTMMSを活用して進捗管理できる仕組みを構築



【対応ソフト】●主利用 ○対応可能

TMMSは竹中工務店(株)独自アプリ

対応ソフト	Revit	○	Rebro	●	T-fas
目的	資材ごとの各工程を入力し、現状の進捗が見える化することで、物流管理を効率化				
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・資材の仕分け作業の生産性向上(ダクトの系統ごとの搬入など) ・場内運搬・揚重調整時間の削減 ・資材情報(発注、制作、受入れ)がリアルタイムで把握可能 				
建築用途・規模	地上45階 地下4階 延床面積:283,896㎡ 用途:事務所・店舗・ホテル 工事範囲:7階～38階事務所(32フロア)				
前工程への課題・要望	この事例はGC元請現場において下請SC複数社を含めGC主導による運用であった ・SC単独で行う場合、ロジセンターの設置は負担が多い⇒対策は要検討 ・資材管理は試行錯誤を繰り返し時間を要した⇒運用はマニュアルを事前に作成				
施工側の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現場巡回時にQRコードをかざす習慣がない ⇒資機材状況の見える化を定期的を実施 ・カスタムプロパティの入力忘れ、間違いによる手戻り⇒作図ルールとして周知 ・QRコード数が多いほど管理側が負荷が増える ⇒資機材によってコンテナ利用などを考慮 例:空調機、VAV⇒機器毎、配管資材、制気口⇒コンテナ毎 				
工夫点・活用ツール	実物とデータを紐づけるツールとしてQRコードを用いることで資材状況(ステータス)の見える化が可能				
備考	メーカー側のQRコード貼り付け業務が増えるため、協議が必要				

日空衛 BIM推進委員会